

# LCMを基点に情報システム部門の ビジネススタイルを創造

The SAZABY LEAGUE

## Case Study

### LCMを情報システムの管理ツールとして活用するだけでなく、 ICT部門本来の業務を支えるビジネス基点として活用

SAZABY、agete、Afternoon Tea、KIHACHI、ANAYIなど、衣料・服飾雑貨から生活雑貨、飲食・サービスまで、30ほどのブランドを全国に展開するThe SAZABY LEAGUE。各事業会社単位に構築された情報通信システム環境の統合運用管理も課題となっていたが、それ以上に、各事業会社を支える情報通信環境提供者としてのICT部門の新しいスタイルへの脱皮を強く志向。そのビジネススタイルの基点として、また、各社の新たな情報システム環境の土台として、LCMの活用に向けた。

#### > システムと特徴

#### 株式会社サザビーリーグIS

衣食住の全ての領域をフレームにおさめ、ライフスタイルを創造する企業集団であるThe SAZABY LEAGUEの情報通信サービスの提供会社として2009年4月に分社独立。SAZABY、agete、Afternoon Tea、KIHACHI、ANAYIなど、30ほどのブランドを全国に展開する事業の情報通信基盤を支え、共にクリエイティブリーダーという独自の発想・視点によって、The SAZABY LEAGUEの社是となる「新しいこと、夢のあること、みんなで喜びを分かち合えること」を目指すリーグ内事業会社の情報システムの構築運用管理を担い、サーバントカンパニーという独自のビジネススタイルを築き上げている。

代表取締役社長：伊藤 敏典 氏  
本店所在地：〒151-8575  
東京都渋谷区  
千駄ヶ谷2-11-1  
電話：03-5412-1862

<http://www.sazaby-league.co.jp>

30ほどのブランドにおよぶ衣料・服飾雑貨から生活雑貨、飲食・サービスを全国に展開するThe SAZABY LEAGUE。The SAZABY LEAGUE内事業部門をそれぞれ独立させているカンパニー制は、意思決定などのビジネススピードや責任領域の明確化によるメリットが大きい反面、情報システムにおいては、各事業会社固有ニーズに応じ個別最適なシステムになりがちでThe SAZABY LEAGUEでの全体最適として課題がある。たとえばおよそ1,600台にのぼるPCやサーバー、ネットワーク機器などのハードウェアはもちろん、OSやアプリケーションバージョンの統一が難しいため、トラブル・シューティングを含め、運用管理がICT部門にとって大きな負荷となっている。

一方、最終消費者向け小売業を展開する各社にとっても、ICT環境の最適化の維持と運用費の低減化は同業他社との競争力強化のためにも重要課題である。

こうした課題解決に効果を発揮するのがLCMサービスなのだが、リーグを横断するICTカンパニーであるサザビーリーグISは、この課題解決への声が大きくなることを好機と捉え、新たなビジネススタイルの構築へと動いた。

それは、漠然とした「ICT部門本来の業務」というようなかけ声ではなく、具体的なICT部門ビジネスを構築することであった。その基点としてLCMサービスを捉えた。

- The SAZABY LEAGUE全体最適を視野に入れた各事業会社のICT機器の最適化を維持すること。
- ICT機器の利用に付加価値をつけた上で管理コストを削減すること。
- ICT部門自身の新たなビジネスモデルをつくりあげること。



Afternoon Tea LIVING 店舗

## > 導入前の課題

### 企業体の特殊性

SAZABY、agete、Afternoon Tea、KIHACHI、ANAYIなど、衣料・服飾雑貨から生活雑貨、飲食・サービスまで、30ほどのブランドを全国展開するThe SAZABY LEAGUE。盤石に見える企業体にも弱点はあった。それは、ブランドごとに基幹系および店舗系のICTの最適化と運用をしているため、全体のメリット最大化が出来ていないことである。「各事業会社のICTを提供支援するシェアードサービスカンパニーとして、リーグ内へ半歩先に行く技術力で最適な価値あるサービスを提供する責任と、統合された安全かつ安心なICT環境を如何に低コストで運用維持し続ける責任がある。ここが私達の新たなビジネスの出発点と考えたかった」との執行役員 串田守弘氏の言葉に、リーグ全体の特性とこれに対応するICT部門としての課題が見て取れる。

### 負荷とコスト課題

各事業会社に導入のICT機器や適用システムは、社内外の環境が変化する今日、各ブランドビジネスにとって最適であるとは言いがたい。ビジネスに合わせ各社の意向に沿って導入したために、コストにバラツキがあった。またさらに大きな課題が、機種やOS、ソフトウェアのバージョンなどに統一性がないこと。しかも、導入・運用管理はICTカンパニーであるサザビーリーグISが引き受け、PCやプリンターのキッティングや異なるバージョン環境のトラブルシューティングに手間と時間が大きく割かれていた。

### ICT資産管理の効率化課題

サザビーリーグISへの作業負荷は、日々発生するトラブルシューティングだけではなく、PC、OSやサーバー、そしてネットワーク機器が、各社事務所のみならず全国の店舗に点在しており、資産管理の手間も大きかった。トラブル対応にも、多種類の予備機を用意するが、これらを厳密に管理することは、グループを統合するコンプライアンスの面からも強く求められていた。

## > お客様の評価

### LCMが情報システム部門の第二弾ロケットになる

ICT部門自身が利益を創造し、その意識が次の工夫へと繋がる状況を創出する。この発想は、まさにコロンブスの卵。これまでは「ICT部門本来の業務」というキャッチフレーズだけが一人歩きした感を否めない。独立性を持つ事業会社を横断すると言う特有の状況もあるが、「ICT部門自身がICT環境エージェント」として、協調性と独立性両面の両立が目指される。その一環として、LCMを検討した。しかし負荷削減とそれに伴うコスト削減だけが目的ではなく、新たなビジネスの土台と捉えた。これに応えられるか否かがLCM選択の基準だった。

### 理解力とスキル、そして、組織力が評価された

まさに第二創業ともいえる覚悟に応えるには「単なるコスト削減だけでは足りない。今回最終的にユニアデックスにしたのは、我々のビジネススキームに対する理解力が大きかったから。パートナーとしてこれからも共に推進していきたい」と田中氏は力説する。「日常業務を担うスキル、全国展開する店舗をもカバーする組織力、そしてICT部門が“独立”しビジネスを推進して行くための収益を理解したコスト提案」が評価に繋がった。サザビーリーグISの新たな挑戦に、ユニアデックスは盤石の体制で応えたいと考えている。

## ユニアデックス株式会社

〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1 TEL.03-5546-4977

\* 記載の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。 \* 自治体・企業・人物名は、取材制作時点のものです。

## > 導入後の効果

### ICT機器の管理を集約

「手間と負荷の削除、監査と運用の環境の可視化が、現場での課題だった。そこでLCMによる統合管理を考えた」とネットワークシステム課長の田中哲哉氏。「既存PCを活かしてのシンクライアント化も考えたが、業態と事業特性から躊躇せざるをえなかった。そこで直面する資産管理可視化と運用負荷削減を念頭に、機器調達、障害対応そして廃棄までの運用管理外注を考え、LCMを選択した」。リース終了機器から移行をはじめ、購買、契約手続き、資産管理などと進め負荷の解放に成功した。

### コストや負荷の削減だけでは意味が無い

「以前は自社で機器を購入しリース資産管理を行い、常駐外注要員で各事業会社本部と全店舗約1,600台のPCやプリンター、ネットワーク機器、ソフトウェアの運用管理をしていた。これがLCM導入で一気に削減、持株会社と各社の戦略的情報環境の牽引者かつ守護者の役に担えるようになった」と、串田執行役員。「コストや負荷の削減だけでは意味が無い。当社は、持株会社と共に各事業会社を横断的に支援する独立会社。当部門自身が独立採算性を強く志向することで、戦略的情報活用提案や安全・安心・安定的なサービス提供をしなければ存在価値がない」とも語る。

### サーバントカンパニーへ

情報企画管理部門から分社独立し1年半。ICT部門であるサザビーリーグISマインドは、その位置づけと意味を大きく変えている。今回のLCM導入で、各社での個別最適から全体最適運用推進へシフト出来た。逆にヘルプデスクを内製化し現場ニーズや不満を直接理解し、より良いサービス提供へと改善した。今後もより役割と機能を高め、そのため外注と内製化の領域を明確にし、各サービスの対価設定で各社は機器や環境の価値とコストバランスを意識する。一方サービス提供側は常に厳しい目で見られることで、戦略的提案や実施を行える。これまで漠然と語られてきた「ICT部門本来の業務」というひとつの解答が、ここにあると言える。



執行役員  
串田 守弘 氏



ネットワークシステム課  
課長  
田中 哲哉 氏

<http://www.uniadex.co.jp/>

010901526-0 ZD1012(500)